

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

平成29年度CAD技術者研修開催される

— 1級～3級コース —

平成29年度のCAD技術者研修が2～3月に開催されました。今年は、いずれも東京の木材会館を会場に、1級コースは、平成30年3月1、2日に参加者数20名（うち会員工場からの参加者数10名以下同じ）、2・3級コースは、2月1、2日に参加者数2級58名（21名）、3級23名（9名）及び併願15名（6名）で実施しました。

1級コースでは、受講者には研修当日に持参する事前課題を課すなどの研修形態とし、考査は記述式により3時間10分行き、プレカット工場のCAD部門の責任者に相当する人材を対象としていることから、より高度な講義内容の理解度を確認するため、自らの技術的な知識の確認の他、部下への指導方法等を問う出題もありました。2・3級コースでは、受講者が研修内容の理解度を自ら認識するため、研修終了後1時間の考査を行いました。各コースとも考査結果が基準点以上の受講者については、申請によりプレカットCAD技術者認定登録が可能になります。

今年は、施設系中規模木造建築物に対応したプレカットCAD技術者研修は、実施いたしませんでした。しかしながら、住宅着工数の減少が見込まれる中で、非住宅分野の木造化が注目されていて、非住宅においては、四号建築物には適用されない法的規制等があること



2級・3級コース研修会場



1級コース研修会場

ことから、今年度のテキストには従来から実施してきた施設系中規模木造建築物対応研修テキストの内容を統合したものを作成し、講義内容もそれらを加味したものになっていました。

今後、民間の非住宅への波及が高まれば、住宅市場の縮小をプレカット工場は補うことが可能となります。これからも、地域の一般流通材を使用した各種木造建築物生産のために、プレカット加工業の影響力は大きくかつ多様になっていきます。CAD技術者の充実は、会員の皆様の工場が地域の中核としてご活躍していただくための重要なポイントですので、これらの研

修の成果をご活用されることを期待しております。

なお、今年度は募集締切後も応募者があり、お断りした者も見られました。来年度も研修実施を予定していますので、早めの応募をお願いしたいと思います。

平成30年度事業計画及び収支予算を承認

— 平成29年度第2回理事会開催 —

当協会は、3月14日(水)に平成29年度第2回理事会を永田町ビル4階大会議室において開催しました。

理事会の冒頭、原田会長から、「我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復基調が続いている。先行きの我が国経済も、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し、経済の好循環が実現しつつあり、民需を中心とした景気回復が見込まれている。プレカット加工業の業況に関連が深い新設住宅着工戸数動向をみると、住宅ローンの低金利効果や相続税の節税対策による着工が落ち着き、平成29年は、96万5千戸と前年に比べて-0.3%になり、木造住宅においても、54万5千戸と前年比-0.2%と前年比で微減となっている。このようなことから、プレカット加工業の業況は、地域的な差はあるものの工場の稼働率は高水準になったが、競争の激化等もあり加工単価は横ばいで推移し、さらに、加工資材の入手環境も厳しいものとなるなど業況の回復には結びついていない状況である。

一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されている。当協会では、このような需要分野の変化に対応するため、プレカット加工業としての関わりを技術面、業務面から支援し、新たな分野への対応を進めていきたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては原田会長が議長を務め、まず、「平成30年度事業計画(案)及び平成30年度収支予算(案)」が事務局から提案説明され承認されました。引き続き、「平成29年度事業の遂行状況」について事務局から説明があり、この中では、従来から実施している普及事業、調査事業の他、技術支援事業として「プレカットCAD技術者基準」に基づくプレカットCAD技術者研修(1級~3級)の実施とプレカットCAD技術者認定登録の状況等が説明されました。

なお、今回の理事会で承認された「平成30年度事業計画及び平成30年度収支予算」は、6月11日(月)に開催される第8回定時社員総会(会場:ホテルメルパルクTOKYO 東京都港区芝公園2-5-20)に報告されます。

第9回「新たな木材利用」事例発表会開催される

一般社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会は、共催で2月6日(火)に東京都江東区新木場の木材会館7階ホールにおいて、第9回「新たな木材利用」事例発表会を開催しました。この発表会には、木材関係者、設計関係者等、120名の参加があり、木造建築の意義や木材の新分野への利用について関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表の第1部においては、「都市木造の可能性」について、株式会社内海彩建築設計事務所代表取締役 内海 彩氏が、耐震・耐火性能を備えた中高層木造建築を都市木造とよぶこととしたこと、新しい木質材料(エンジニアードウッド)や解析技術の進歩・実験検証にもとづく法律や規制の合理化によってさまざまな木造建築が実現可能となってきたこと、都市で木が使われている間に森では木が成長するので持続性のある循環型社会の実現が可能で、都市と地方をつなぐことができること等の説明がありました。

また、第2部においては、「木材を使った街づくり」事例とその評価について発表が行われました。まず、清水建設株式会社設計本部教育・文化施設設計部部長 牧住 敏幸氏が「建築分野の木材の活用事例として、最新の木材利用技術」について紹介しました。次に、一般社団法人 日本WOOD.ALC協会事務局長 松浦 薫氏が「木造・木質化の多用途利用WOOD.ALCの取組み」について紹介しました。この他、江間忠木材株式会社エコライフ事業部部長 前野 晋史氏が、「エステックウッドを使用した大型木造・木質化の展開(大型物流施設等)についての事例紹介」を行いました。

これらの事例発表を通して、木のある生活が心と体の安らぎを与え、木の学びや木のみちづくりがさらに広がっていくことが期待されています。

平成29年 協会会員工場基礎調査結果について (第1回)

— プレカット加工用資材の材種別使用状況 —

(平成29年12月末現在)

平成29年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材、合板、その他の使用割合について集計、分析を行いました。(調査工場数:47工場)

国産材 (41.2%)

表中の()は昨年の数値

使用割合(%)	グリーン材	KD材	集成材	合板	その他
0~10	36	6	15	19	44
11~20	3	9	9	6	2
21~30	6	5	8	7	0
31~40	1	6	4	3	0
41~50	0	4	2	7	0
51~60	0	6	1	1	0
61~70	0	2	3	2	0
71~80	0	3	4	1	0
81~90	0	3	0	0	0
91~100	0	2	0	0	0
平均使用率(%)	8.0	41.2	26.5	23.1	1.2
中央値(%)	3	40	20	20	0
(平均使用率(%)	(12.8)	(42.5)	(23.1)	(21.1)	(0.5)
中央値(%)	(8.5)	(40)	(12.5)	(14.5)	(0)

輸入材 (58.8%)

使用割合(%)	グリーン材	KD材	集成材	合板	その他
0~10	38	4	2	37	44
11~20	5	5	3	5	0
21~30	1	4	7	2	1
31~40	0	17	9	0	0
41~50	1	5	3	0	0
51~60	0	4	12	0	0
61~70	0	2	2	0	0
71~80	0	2	5	1	0
81~90	0	2	1	0	0
91~100	0	0	1	0	0
平均使用率(%)	5.0	39.4	48.6	5.7	1.3
中央値(%)	1	40	50	0	0
(平均使用率(%)	(3.9)	(41.4)	(45.5)	(6.8)	(2.4)
中央値(%)	(0)	(40)	(40)	(0)	(0)

注) 調査工場数は47であるが、加工実績なしが1工場、国産材のみが1工場あるため、各項目別集計数は、調査工場数と一致しない。

◇簡単なコメント

- 1 国産材においては、これまで平均使用率の長期的なトレンドとして、グリーン材の使用率の低下や集成材等の増加が続いており、今回の調査した結果でも、KD材41%、集成材27%、合板23%、グリーン材8%という結果になった。平均使用率を前回と比較すると、グリーン材の割合は5ポイント低下し、KD材はほぼ変わらず、集成材・合板等の割合が上昇している。
- 2 また、輸入材においても、集成材等を細分化した結果、集成材が49%、KD材が39%、合板6%、グリーン材5%、その他1%という結果になった。前回の調査結果よりKD材、グリーン材にはあまり変動は見られず、約半数を占める集成材の使用率が上昇している。

プレカッタ業況調査 (平成30年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカッタ協会調べ (回答率: 43 %)

設 問	回答比率 (%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	10	34	55	-45	+40
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	28	66	7	+21	-49
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,000円(対前回調査-20円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	93	7	-7	+6
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	97	0	+3	+3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	10	72	17	-7	-34
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	7	76	17	-10	-25
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	38	59	-56	+6
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	28	52	21	+7	-38

*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

*前回調査: 平成29年11月

◇簡単なコメント

2月の各設問のDIをみると、受注額と収益については、半数を超える会員が悪化していると回答している。3ヵ月後の受注額と収益についての予測は、反動からか好転が悪化を上回っている。これに対して、加工単価については大半の会員が変わらずの状況であり、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手環境は、これまでの困難な状況から改善してきており、3ヵ月後についてもいくらか改善の兆しがあると予想している。今後は、受注額と収益が好転することを期待したい。

- 1 受注額のDIは-45で前回調査時(平成29年11月期)に比べて、かなり悪化しており、新設住宅着工戸数の減少を反映している。また、3ヵ月後の予測のDIは+21で現状の反動とも思われる予想をされている。今後とも、予想を覆すような業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-7とやや悪化しているものの大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,000円と3ヵ月前と比べてわずかの下落となっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3であるが、加工単価の上昇はそれほど期待出来そうにない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは-7で改善はしてきている。3ヵ月後の予測のDIは-10(前回は-25)であり、今後ともいく分の改善を見通している。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-56とかなりの悪化がみられている。前回調査時の3ヵ月後の収益予測が-38であった以上の結果が数字に反映されている。さらに、3ヵ月後の収益予測は受注額の反動増と同じく+7と、いくらか好転の先行き予想となっている。